

「救いたい心」をつむぐコミュニケーションマガジン

赤十字 NEWS

Japanese Red Cross Society NEWS

<https://www.jrc.or.jp>

令和3年12月1日(毎月1日発行) 赤十字新聞 第979号 昭和24年9月30日 第三種郵便物認可

DECEMBER 2021 NO.979

12



わたしも赤十字 寄付の協力者 横浜女学院中学校 高等学校の皆さん【P.4でご紹介】

特集

NHK 海外たすけあい 連動企画

感染症から誰も取り残さない

赤十字の最新情報をSNSでチェック!



赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

人間を救うのは、人間だ。

 **日本赤十字社**
Japanese Red Cross Society

NHK 海外たすけあい

キャンペーン期間:12月1日(水)~25日(土)

感染症から誰も取り残さない



ルワンダの貧困地域の水くみ。いちばん近い水くみ場所まで片道30分以上かかる。毎日、何往復もして水を運ぶのが子どもたちの日課。苦勞して手に入れた水は貴重で、感染症から身を守るための「手洗い」に使うことは難しい。

©Atsushi Shibuya / JRCs

世界中で新型コロナウイルス感染症が拡大し、先進国や経済的に豊かな人々が防疫やワクチン確保に躍起になっていたとき、インフラさえも十分に整わない途上国や紛争・災害の被害を受けた人々は、感染症の脅威の矢面に立たされていました。人類史に残るパンデミックから、最も影響を受ける人々を守る——赤十字はその使命を果たすべく、世界各地で活動しています。このような世界の赤十字活動は「海外たすけあい」キャンペーンのご寄付に支えられています。

手を洗う、衛生的な環境をつくる、感染対策の基本にある「水」の確保

ルワンダの貧困地域で命を守る「水」支援

東アフリカにあるルワンダの貧困地域・ギザガラ郡で、日赤はルワンダ赤十字社と共に開発協力事業に取り組んでいます。電気や水道といったインフラも整備されず、ワクチンも届かない村で、人々をウイルスから守るにはどうしたらいいか——まずは手洗いやマスクといった基本の感染防止策が不可欠と考え、手洗いの習慣がなかった現地の人々に手洗い指導をし、マスク、ソーシャルディスタンスなどの感染防止の啓発を行いました。さらに、手洗いの場がなかった小学校に「簡易手洗いセット」を複数設置。しかし、水道が引かれていないため、手洗いセットを活用するには生徒たちが水くみを行う必要があります。この水の問題は、村全体の課題でもありました。水道のない村では、



小学生への指導を通して家庭にも手洗い習慣が伝わる 長く使える給水設備設置のために現地調査を実施



学校トイレの手洗い場に生徒と一緒に水をためる吉田代表

各家庭の子どもや女性が毎日数時間を水くみに費やし、水くみのために学校に行けない子どもも少なくありません。苦勞して得た水は手洗いや洗濯・清掃のために使用するのに十分な量はなく、村人の健康を守るために「安全な水の確保」は急務でした。現地に派遣された日赤の職員・吉田拓はこの問題に正面から取り組むために、ルワンダ赤十字社の職員、ボランティアらと協力し、水源や水質の現地調査を行い、給水設備の設計を進めています。「水源の特定は慎重な検討が必要です。1つの村が潤うことで他の村が困窮するようなことが起こらないようにすること、また、気候変動の影響もあり豪雨や洪水にも見舞われるルワンダでは、設備の強固さや設置する場所の安全性なども重要です。日赤の支援が終わった後も現地の人々がそれを維持し、生活を向上させていける、ルワンダの人々の明るい未来につながる支援が『海外たすけあい募金』のご寄付で実現しています」(吉田拓/日赤ルワンダ首席代表)

人口が密集する避難民キャンプで感染拡大を抑える赤十字の活動

バングラデシュ南部で避難民を守り、支える

2017年8月にミャンマーで発生した大規模な暴力から逃れ、隣国のバングラデシュで避難民として生きる人々は86万人*にのぼります。バングラデシュ政府はコックスバザールにある国立公園の森林を切り開いて避難民を収容するキャンプとし、フェンスで囲んで避難民のキャンプ外への移動を制限しています。昨年、バングラデシュ国内で新型コロナウイルスの感染流行がはじまったとき、この移動制限が功を奏しました。衛生状態も劣悪で人口が密集する避難民キャンプでありながら、感染が抑制され、2021年8月のデータではコックスバザールの避難民の感染者は0.3%の2577人。同時期のバングラデシュ国内の感染者が0.8%であるのに対し、大幅に抑えられました。

その理由を、日赤の看護師であり、国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)の現地保健要員を務める菅原直子(日赤愛知医療センター 名古屋第二病院)さんはこう考えます。

「第一に入城制限がされていたこと。そして、赤十字がトレーニングしたボランティアが地道な活動を継続したこと。彼らは、一軒一軒、避難民の住居を戸別訪問して発熱や呼吸器の症状がある“疑わしい人”を発見したら保健医療センターに紹介する、キャンプ内の隔離施設に連れていく、という活動を続けました」

バングラデシュ赤新月社職員のラティーフさんも「私たちが(ボランティアと共に)キャンプ内で啓発をしっかり行ったので、感染が抑えられたのです」と胸を張ります。2020年はバングラデシュでもロックダウンがあり、避難民キャンプで活動していた日赤職員も帰国を余儀なくされました。しかし、日赤が2017年の支援開始以来、手塩にかけて育成したボランティアたちは、感染拡大の危機に際し、草の根の活動で感染防止に貢献したのです。

避難民キャンプには日赤の医師・看護師が指導したバングラデシュの若い医療従事者が診察するクリニックがあります。そこは「ジャンクリニック」



(上)避難民キャンプのIFRC保健要員として現地で活躍する菅原看護師長、(右)避難民への手洗い指導を行う吉米地看護師長

特別番組

『バングラデシュ避難民に寄り添って』



「海外たすけあい」キャンペーンの一環で11月にBS-TBSで放送された番組を日赤ホームページ、公式YouTubeで公開中。バングラデシュ避難民に寄り添う日赤職員のリアルな活動をご覧ください。

日赤ホームページ「海外たすけあい」特設サイト▶



(写真上) 避難民キャンプの中のコロナ隔離棟はバングラデシュ赤新月社が建設した。各国の赤十字社が連携し、避難民の支援を続けている。(左下) 2017年8月当時、70万人もの人々が着の身着のまま、ほとんど軌跡状態で国境を越えた(右下) 今年9月、竹とビニールでつくられた簡素な小屋が密集する避難民キャンプ

と呼ばれ、病気やケガの診察の他、産前検診を行う母子保健室も備えられており、避難民の健康を守るよりどころとなっています。また、キャンプ内で日赤がデンマーク赤十字社と共に支援する施設では避難民の心の傷を癒やして健康な社会生活を取り戻すための「心理社会的支援」も行っています。この施設では家族を殺されたり、ひどい暴力を受けるなどして、絶望の中にいる人々が生きる力を取り戻すお手伝いをしています。

避難民キャンプにおけるこれらの赤十字の活動は、「海外たすけあい募金」によって支えられています。ご寄付によって、国を追われ希望も奪われた避難民に寄り添う心が届けられます。

*8月上旬 IFRC発表データ



「ジャンクリニック」と呼ばれ避難民に愛される日赤支援の診療所

「NHK 海外たすけあい」ご寄付受付中!

今年も NHK などと共催で「NHK 海外たすけあい」キャンペーンを実施します。新型コロナウイルス感染症の流行でますます困難な状況に置かれた人々へ「たすけあい」の輪を広げていきます。最も脆弱な立場の人々の命と健康、尊厳を守るため、皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。◀寄付受付期間：12月25日(土)まで▶

日赤 海外たすけあい 検索

詳しくはキャンペーン特設ページをご覧ください▶



NHK 海外たすけあい

キャンペーン期間:12月1日(水)~25日(土)

「バングラデシュ避難民に寄り添って」

F・ナイチンゲール記章を受章した日赤看護師のメッセージ



日赤バングラデシュ国代表部
首席代表
日赤医療センター 看護師長
とまべちのりこ
苦米地 則子

今年、名誉ある「フローレンス・ナイチンゲール記章」を受章した苦米地則子さんは、2017年9月、日赤の緊急救援の先遣隊としてバングラデシュに初入国しました。それから毎年、数カ月の期間をバングラデシュ南部避難民キャンプでの活動に費やしています。2020年の2月には横浜港に停泊したクルーズ船内でも救護班の総括調整役を担いました。

同章は、支援活動の最前線にいる現役看護師が受章するのはまれといわれています。この受賞について苦米地さん本人は「思いがけない受章でした」と、驚きを隠しません。

「避難民に同情する、というのではなく、そういう上から手を差し伸べる感じではなく、フラットに活動したいと思って続けています。私が赤十字の活動を頑張れる、原動力になっているのは、バングラデシュの避難民ボランティアたちの存在です。先遣隊として初めてキャンプに入ったときに会った避難民ボランティアが、4年間、赤十字の活動に協力してくれています。彼らは自分たちも勉強になるから、とか、赤十字の活動はとても価値のあることなんだと言ってきて、本当にありがたいなと。彼らの存在にパワーをもらっています」

支援する側が、支援される側からパワーをもらう。救いたい気持ちがあふれる救援の現場には、「当たり前のように人々が助け合う世界」が広がっています。



バングラデシュ避難民キャンプでの活動の様子

眼下に避難民キャンプが広がる丘に立つ。この丘は、2017年9月の日赤の診療所第一号が設置された場所



「フローレンス・ナイチンゲール記章」は、近代看護の礎を築いたF・ナイチンゲールの功績になぞらえ、世界的に顕著な看護活動を行った人物に贈られる、名誉ある賞です。隔年で赤十字国際委員会(ICRC)から受章者が発表され、日本の授与式では皇后陛下から直接、記章を賜ります。

わたしも赤十字

今月の表紙

赤十字にはさまざまな形で赤十字の活動に参加する支援者がいます。全国の支援者の中から毎月お一人(一組)を、温かいメッセージと共にご紹介します。

「知らない人でも、助ける」生徒主体で取り組む“海外たすけあい募金”



寄付の協力者

鈴木七海さん(左)

佐藤果歩さん(右)

神奈川県横浜市
横浜女学院中学校 高等学校 高校2年生

「授業で海外への寄付事例を学び、お金やモノの支援だけでは復興の妨げになる場合があることを知りました。赤十字はそうした支援と異なり、困っている人が自立できるように一緒に活動をする、心をケアするなど、真に人々のニーズに合った支援をしていると思います。世界の問題に興味を持つ同世代の人はたくさんいます。皆、どんな問題があるか知らないだけなんです。支援の必要性を知れば、寄付する気持ちも生まれますし、具体的な寄付の使い方を知れば安心して寄付できます。一緒にやろうと声をかけて、共に考え、自発的に行動を起こせる仲間を増やしていきたいです」(鈴木七海さん)

「赤十字の活動は、“知らない人でも、自分のことのように思って助ける”という聖書の教えに通じるところがあると思います。私たちの学校では毎年、赤十字の海外たすけあい募金活動に参加していました。しかし昨年はコロナ禍で募金活動ができなかったため、できることをしようと、皆で支援先を調べ

たり大使館にメールを送ったりして、南アフリカ共和国を支援する『クラウドファンディング』にも挑戦しました。この活動を通して寄付してもらうために必要な『情報』や『信頼』についてより深く考えることができて、この気づきが今年の海外たすけあい募金活動にも生かれます。世界のことを調べるほどに、自分が恵まれていて、選べる自由があることに気づきます。苦しんでいる方を支援するために実際にコミュニケーションが取れるようになりたいので、しっかりと勉強したいと思います」(佐藤果歩さん)

寄付するあなたも赤十字です

- クレジットカードで寄付
- 郵便局・銀行の口座振替
- 郵便局・銀行の窓口
- お近くの日本赤十字社窓口



TOPICS 「クロス体操」でリフレッシュ!

コロナ禍における外出自粛や新しい生活様式(在宅ワーク)の中で筋力低下や生活習慣病、気分の落ち込みなどが問題になっています。また、厚生労働省は日々の生活に10分の活動をプラスすることで「がん発症を3.2%」「ロコモ*・認知症の発症を8.8%」低下させる可能性があることから、10分程度の軽い運動を推奨しています。これらの社会的ニーズに着目し、日赤岡山県支部は、音楽に合わせて軽い運動を楽しめる動画「クロス体操」を作成、支部公式YouTubeで公開しました。

日赤ではこの動画を地域包括ケアの一環として「健康生活支援講習」で活用するほか、地域のコミュニティ活動でも活用していきたいと考えています。岡山県支部では早速、豪雨災害被災地の仮設住宅の皆さんと体操を実施するなど、活用を広げています。



豪雨災害被災地・真備町の集会所でクロス体操を実施

健康生活支援講習：健康増進の知識や高齢者の支援・自立に役立つ介護技術を学べる講習。全国の日赤各支部で開催されている。



日赤本社では、全国から集まった「健康生活支援講習」の指導者たちもクロス体操を体験

「クロス体操」は全8種類

- **ストレッチ、運動メニュー 4種類**
 - ①いすdeストレッチ(11分41秒)
 - ②いすde筋トレ(9分10秒)
 - ③ロコモ*予防deロコトレ(8分39秒)
 - ④ももたろうdeリズム体操(2分53秒)
- **上記の①～④の組み合わせ 4種類**
 - 「ロコトレコース」(①+③+①)：約30分
 - など目的に合わせて選べます。

*ロコモティブシンドローム：加齢による運動器障害で寝たきりの危険性が高い状態を示す名称

詳しくは公式YouTubeで

東大脳に挑戦!

知識を深める赤十字QUIZ

出題 東京大学クイズ研究会(TQC)

知ってるつもりでも、意外と知らない赤十字のこと。東大クイズ研が手掛ける問題にあなたは正解できる!?

12月となり今年もいよいよ終わりが近づいてきました。赤十字では恒例の海外たすけあいキャンペーンが始まっています。今月は、海外たすけあいにちなみ、世界で使われている赤十字マークに関する問題です。いざというときに国民一人一人を守る大切なマーク。ぜひ理解しておきましょう。



今月のクイズ

難易度：★★★

世界192の赤十字社の中には、赤十字や赤新月の形以外にも独自のマークの使用を希望する社もありました。下の図のイラストは、いずれも実際に検討されたマークです。この中で承認されたのはどれでしょうか。

ヒント
有事の際に「保護標章」として描くのは難しいかも?

A

B

C

D

答えはP.6へ

AREA NEWS

全国各地
あなたの生活のすぐそばで
日本赤十字社の活動は行われています。

千葉県 ハッピーハロウィン! 小児科病棟での楽しい一日

成田赤十字病院の小児科病棟でハロウィンイベントを開催しました。10月27日に行われたこの催しでは、トナカイやカボチャ、ガイコツ、魔女などにふんした病院スタッフが子どもたちを驚かせようと病室を訪問。着ぐるみなどを着て待ち構えていた子どもたちは、喜んだり恥ずかしがったり、びっくりして泣き出してしまったりと、いろいろな表情を浮かべていました。



仮装したスタッフと子どもたちが仲良く並んで記念写真

東大問題に挑戦! クイズの答え

D
現在のジュネーブ諸条約には日本赤十字社が使用している赤十字マークのほか、赤新月、レッドクリスタル、Dの「赤獅子太陽」が保護標章として規定されています。この「赤獅子太陽」標章はパーレビ王政時代のイランが申請し、承認されたものですが、1979年、イスラム革命によって政権が変わり、イラン・イスラム共和国が樹立してからは使用されていません。

静岡県 土石流に流された大切なもの 奉仕団が一つ一つ、洗浄作業

日赤静岡県支部の熱海市赤十字奉仕団は、ボランティア団体や市職員と協力して、被災地での拾得物の洗浄作業に取り組みました。この拾得物は7月3日の熱海市土砂災害の発生後、警察、自衛隊、消防が捜索活動と並行して回収した品々。廃校の小学校を利用し、写真や手紙、ランドセル、卒業証書などにべったりとこびりつく泥を、一つ一つ丁寧に洗い流しました。



大切な宝物が持ち主の手に戻ることを願って

福井県 視覚障害者の買い物をアシスト 高校生が点字マップを製作!

福井県立福井商業高校の青少年赤十字部が、県内唯一のデパートの点字マップを製作しました。同校では日頃から障害者の介助ボランティアに取り組んでおり、改装された同店の点字マップを学生自らが企画。アイマスクをつけて店内を歩き、視覚障害者の気持ちを想像しながら完成させました。「マップを手に、安心してすてきなお店を楽しんでほしい」と活用を期待します。



マップには改装したフロアの店名や配置を点字で記載

全国各地で赤十字の各種訓練が再開 コロナ禍での大災害に備えて...

日本赤十字社では日頃から災害などの事態に備え、全国で各種訓練を実施しています。コロナ禍による中止や延期もありましたが、今秋、各地で訓練が再開しました。

10月10日、千葉市で行われた「第42回九都府市合同防災訓練」に千葉県支部と成田赤十字病院の救護班が参加、コロナ禍で直下型大地震が発生したことを想定し、県や市、消防や自衛隊、警察など約50機関と共に実践的な訓練を実施しました。

埼玉県支部は10月27日～29日の3日間にわたって「救護班要員研修会」を開催。県内の赤十字病院に編成されている医療救護班が集結し、訓練を通じて知識や技術の習得を図りました。

山梨県支部では赤十字奉仕団員が災害時に活動するボランティアとして知識と技術を磨くため、県内4カ所で災害救護訓練を実施しました。約200人が参加し、応急手当などを学びました。



事前研修で一次救命処置を学んでよかった」と学生奉仕団員

愛知県 “フォレスト”という名の 開放感ある献血ルームが誕生

緑豊かな複合施設として人気のある「ノリタケの森」(名古屋市)に隣接するイオンモール内に「献血ルーム フォレスト」がオープンしました。県内初、成分(血漿)献血を中心とした予約専用の献血ルームです。「安全性」は言うまでもなく「清潔感」「開放感」を重視し、待合室の大型モニターでは自然豊かな映像などを放映。コロナ禍でも、ゆったり安心して献血いただけます。



イオンモールNagoya Noritake Garden 3階にオープン

岐阜県 小学生と京大の防災コラボ 児童の観察日記を研究で活用

青少年赤十字加盟校の栃尾小学校では、過去に校区で起こった大規模な土石流災害を教訓に、京都大学防災研究所から雨量観測システムなどの機材の提供を受け、毎年4年生の児童が、雨、空、山の観察結果を「ぼうさい空日記」として記録しています。児童が自然災害の危険性を知る感覚を養うと同時に、蓄積された観察記録は京大の防災研究にも役立てられています。



児童たちはタブレットを使って「ぼうさい空日記」を毎日記録

石川県 マラソン大会で人が倒れた! ボランティアが救命サポート

10月31日、「金沢マラソン2021」に赤十字ボランティア67人がAED隊として参加。40km付近でランナーの1人が意識を失って倒れたため、ボランティア(北陸大学学生赤十字奉仕団)がAEDを持って救護に向かうと、近くにいた医師免許を持つ一般ランナーも駆け付け、心肺蘇生とAEDを用いた除細動を実施。倒れたランナーは無事一命を取り留めました。



「事前研修で一次救命処置を学んでよかった」と学生奉仕団員

静岡県 大分県 昨年はコロナ禍で中止になった赤十字大会 日赤名誉副総裁ご臨席のもと、2年ぶりの開催へ

昨年来、コロナ禍により日赤各支部の赤十字大会や総会などの行事が中止や延期を余儀なくされましたが、今秋、2年ぶりに日本赤十字社名誉副総裁のご臨席を仰ぎ、公式行事を再開することが出来ました。



静岡県



大分県

11月5日、静岡県支部の創立130周年記念赤十字大会に高円宮妃殿下がご臨席。この大会では、顕彰式やJRC加盟校によるハンドベルとマンドリンの演奏のほか、熱海市伊豆山地区土砂災害における日赤職員の活動発表も行いました。11月11日、大分で行われた九州八県赤十字大会には寛仁親王妃信子殿下がご臨席。顕彰や全国大会14連勝という記録を持つ日本文理大学チアリーディング部の演技が行われました。

お言葉を述べられる高円宮妃殿下(左/静岡) 寛仁親王妃信子殿下(右/大分)

ニッポンの赤十字ゆかりの地を巡る vol.9 赤十字名所紀行

昭憲皇太后と赤十字の縁を感じられる明治時代の病院建築

現在、愛知県の博物館 明治村にある日本赤十字社中央病院の木造建築は、東京・広尾の日赤医療センターの旧病院舎の一部です。皇室から建築資金10万円と、渋谷の御料地の一部が下賜されたことで、明治23年に竣工しました。設計は、赤坂離宮などを手掛けた宮内庁技師・片山東熊によるもので、細部にわたり繊細な装飾が施され、美しい建物であると同時に、当時の最先端の病院機能を備えました。昭和49年の病院立て直しの際、9棟あるうちの1棟が博物館明治村に移築され、現在も登録有形文化財として保存展示されています。内部の壁には当時病院を飾った社章「桐竹鳳凰」の木彫りの彫刻が今も遺されています。「桐竹鳳凰赤十字」は、昭憲皇太后から示されたかんざしのデザインに基づくもので、鳳凰は卵やひなを守るような姿勢で、両羽を大きく広げて赤十字マークを抱えています。赤十字事業への協力などに功績のある方々が授与される有功章や、赤十字の職員章にも刻まれているデザインです。

日本赤十字社中央病院 病棟 (愛知県犬山市)



屋根の上の換気塔や小壁に施された透かし模様など柔らかな印象の建築物



桐竹鳳凰赤十字の貴重な彫刻が目近で見られる

画像提供/博物館 明治村

「赤十字を応援!」プレゼント パートナー企業紹介 vol.20 三州製菓株式会社

真心込めたお菓子づくりを通して、生活に心の豊かさを添える



12年ほど前から正月恒例となっている、児童養護施設の子どものお餅つき

豊富なバリエーションで気分に合わせて味を選べ、ビールやワインのおつまみとしても大人気のバスタスナック。このバスタスナックを作っているのが、70年以上にわたり、高級米菓を作り続ける三州製菓株式会社です。厳選された安全・安心な素材を使用し、伝統製法を継承しつつ個性豊かな商品を提供する同社は、お菓子づくりを通して地元・埼玉県春日部市の子どもの支援にも力を入れています。店舗にて児童養護施設のアート作品展を開催するほか、お餅つきやバザーにも協力。小学校や特別支援学校ではせんべい焼き体験を行うなど、子どもたちとの交流を通じて心の豊かな地域づくりに貢献しています。また、東日本大震災では発生直後に被災地へ救援物資を届けるとともに社内で義援金を募って寄付するなど、会社一丸となって社会貢献に取り組んでいます。先代の社長は日赤埼玉県支部の有功会員で、評議員も務めるなど赤十字事業を支えています。

パスタスナック 詰め合わせ

5名さまに



本格パスタを使用し、独自の特殊製法で作られたカリカリ食感がお酒のおつまみにもピッタリ!

商品写真はイメージです

上記プレゼント希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・WEBでご応募ください。①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢 ⑤赤十字NEWS 12月号を手に入れた場所(例/献血ルーム) ⑥12月号に関するご意見・ご感想 ※ご応募いただいた個人情報はプレゼントの発送および弊社からのお知らせのみに利用いたします。

郵送/〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3 日本赤十字社 広報室 赤十字 NEWS12月号プレゼント係 FAX/03-6679-0785 WEB応募/右の2次元バーコードからご応募ください。12月28日(火)必着 ※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代させていただきます

こちらから応募できます



WORLD NEWS

国際赤十字と連携する災害救援

ハイチ

ハイチ大地震の緊急救援 日赤職員が現地からレポート

ハイチ大地震から3カ月。地震以前から、貧困の拡大や大統領の暗殺、ギャングによる暴力行為などが問題になっていたハイチで、地震で住む家を失い、ますます苦しい状況に置かれている人々がいます。国際赤十字の野外病院で活動する日赤職員に話を聞きました。

被災地に野外病院を設置
赤十字が連携してハイチをサポート

8月14日に発生したM7.2の大地震により、85万人もの被災者を出したハイチ。ハイチ赤十字社、国際赤十字も救援物資や水・衛生などの支援を続けていますが、病院の倒壊や深刻な燃料不足の影響もあり、医療体制は逼迫した状況にありました。

国際赤十字は被害の大きかった南西部のレイカイに入院・手術機能を持つ臨時の野外病院(病院ERU)を展開。フィンランド赤十字社を中心に、地元の人々との対話を重視した医療支援を行っています。日赤から派遣された看護師や薬剤師も文化や言葉の壁にぶつかりながらも昼夜を徹し活動を続けています。

10月に手術室看護師として派遣された日赤医療センターの赤井智子看護師に聞きました。「地震で負傷し右腕を切断することになった3歳の女の子が、皮膚の移植手術を受けました。お母さんは『ありがとう』とわざわざ感謝の言葉を伝えてくれました。その子はケガの影響か、人に体を触られることにトラウマがあるようでした。私が手術前に女

の子を迎えに行き、あやしながら手術台まで案内し、触らせてもらえるようになったのですが、そんな様子を見てお母さんも安心したようです。現地の病院はお金がかかりますが、病院ERUの治療は無料です。皮膚移植で見た目を整えるような繊細な手術も行っており、被災後の身体の回復はもちろんのこと、心のケアにも大きく役立っていると思います」

貧困、燃料不足、治安の悪化…
悪条件だけでも、救う活動を

同じく福岡赤十字病院の川口真由美看護師は現地の状況をこう述べます。「地震の前からハイチはかなりの貧困国です。この国でもCOVID-19の流行は避けられませんでした。マスクを買えない人が多く、教育も不十分なので、感染に対して無防備な人があまりに多いのが実情です。また、燃料不足も深刻で、入手が困難なため病院を運営していても、ぎりぎりの燃料で発電機を動かしています。日本では考えられないことですがレントゲンと滅菌装置のどちらの電気を優先するかなど、綱渡りです」。手術室看護師は24時間

体制、真夜中でも宿舎から病院に駆けつけます。治安が悪く夜の移動はリスクもありますが、それでも赤十字がそこにいなければ助からなかった人々を救うために働いています。

医薬品・医療物資の管理をする大阪赤十字病院の仲里泰太郎薬剤師は、病院の外に食べ物を求める子どもがいる光景に衝撃を受けました。「貧富の格差があまりに大きい。医療サービスが脆弱な中で出産も多いなど、COVID-19以外にも懸念があります。日本での報道は減っていますが、日本人にハイチの現状を知ってほしいです」

11年前のハイチ大地震では、被災地にコレラが蔓延。このとき日赤は支援地域に感染症予防のための手洗いを普及させるなど大きな成果を上げました。被災した人々が最も必要とする支援を届けるため、日赤職員の世界各地での奮闘はこれからも続きます。



©Finnish Red Cross

赤井看護師(左端)が担当した少女ロセちゃん(3歳)と母親。ロセちゃんは地震で倒れた壁の下敷きになり右腕を失った



©Adriano Valentin / IFRC

野外に設置された病院 ERU のテントでは手術も行われる

supported by ICRC

赤十字、世界の「現場」から

赤十字国際委員会(ICRC)が展開する紛争地での保護活動や避難民支援。その活動現場で切り取られた、知られざる世界の姿、世界の課題。

1944年、第二次世界大戦中、東京の捕虜収容所におけるクリスマスの様子。国際赤十字は日本国内の捕虜収容所に、世界各国から託された支援物資の配達を試み続けたが、軍部の倉庫にとどまってしまう物資も多かった。この年のクリスマスは幸運にも、東京以外でも複数の収容所で物資分配が実現した。

ICRCの活動:
4つの柱 ⇒



ICRCは、戦争捕虜や被拘束者への拷問や虐待を防ぎ、人道的な処遇を受けているかをモニタリングします。定期的に訪問し、施設内に問題を発見した場合は状況の改善を当局に促します。憎しみがさらなる暴力を生むといった負の連鎖を断ち切ることも赤十字の重要な使命です。



© ICRC